



# 文字を読ませるための紙 「光文社新書」

本文用紙：特抄紙 米坪量：72.1g / m<sup>2</sup>

現在の新書ブームの先駆けとなった「光文社新書」では、本文用紙に上質ベースの「特抄紙（特注品）」を使用している。既存の用紙ではなく特抄にしたのは、オリジナリティにこだわった結果だという。

他社の新書シリーズの造本なども参考にしながら、より現代的な新書のイメージを追求し、編集部と製紙メーカーとが協議しながら本文用紙をつくりあげた。

できあがった本文用紙は表面のマットな質感と暖かみのある淡いクリーム色が特徴で、長時間の読書でも目が疲れにくく、文字を追いやすい。

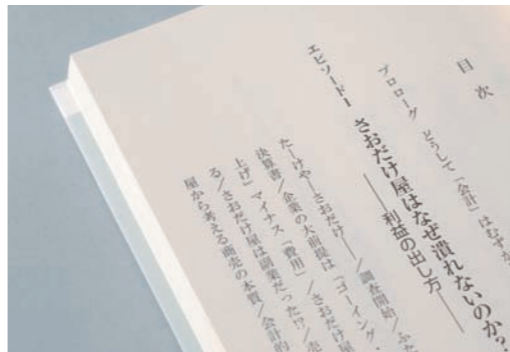
また印刷した文字の裏書き・裏抜けが少ないため、すっ

きりとした印象のページに仕上がっている。

紙を特抄にして、求めるイメージに合わせることができるとも、新書のように長期にわたって安定した発行部数が見込める出版物ならではの。同様の背景から、文庫本の本文も特抄用紙が使用されるケースが少なくない。

### 関連ページ

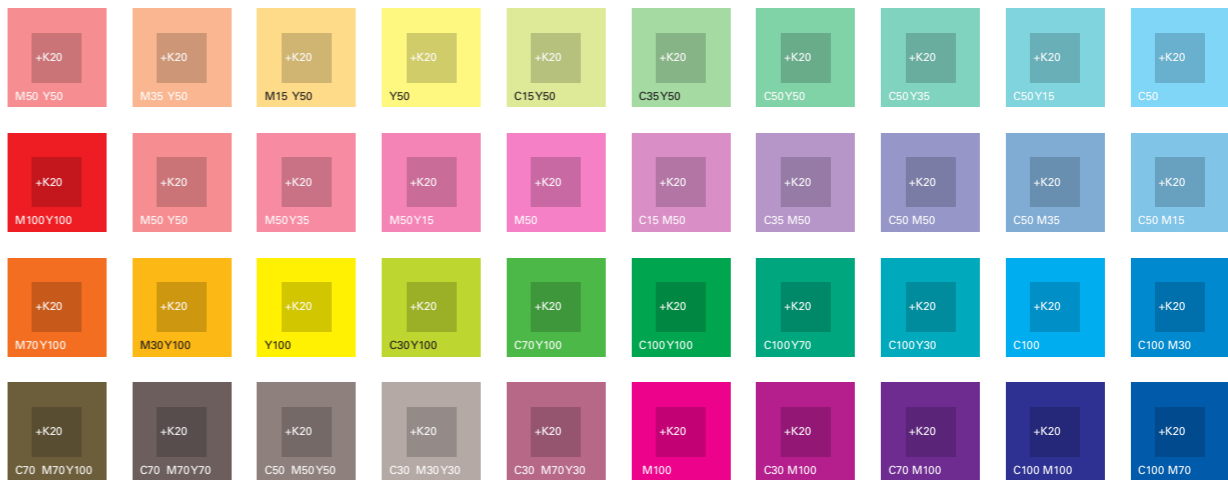
- p.47 用途によって白さを選ぶ
- p.48 不透明度と裏抜け
- p.61 紙の価格



光文社新書『さおだけ屋はなぜ潰れないのか？——身近な疑問からはじめる会計学』／山田真哉 著／光文社／2005年



文字主体の本は、目にやさしく、落ち着いて文章を追える紙が好まれる。光文社新書では暖かみのある淡色の紙を用いているが、これはオリジナルで製作したもの。斤量はそれほど厚くないが、裏書き・裏抜けが少なく開いたときに文字がすっきりと見えて、読みやすい印象を受ける



プレアテレス 157.0g / m <sup>2</sup>	プレアテレス 157.0g / m <sup>2</sup>	プレアテレス 157.0g / m <sup>2</sup>	プレアテレス 157.0g / m <sup>2</sup>
-----------------------------------	-----------------------------------	-----------------------------------	-----------------------------------